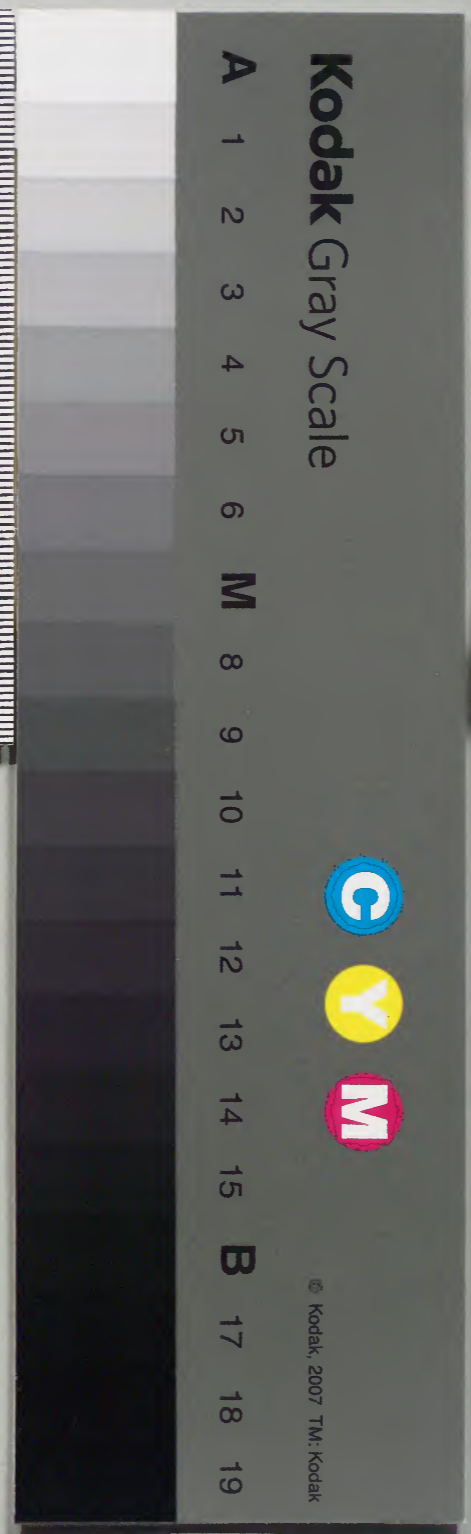


寛永諸家譜

藤原氏丙十冊之内二
秀郷流

第七番
十冊

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數		186(88)
函號	特	76 1





山内	荒木	今村	富田
五味	石尾	関	木村

寛永諸家系傳

藤原氏

秀郷流

山内

丙二 小家

去佐守忠義
 稱号とたまふ
 松平の

大織冠八代

●秀郷

後田佐下
 武藏守母八下野掾麻嶋女

淺草文庫

千常 ちひ

後五位下 よご 左衛門尉 さゑもんのかみ 檢非違使 けびい 鎮守府將軍 ちよぶのしやうぐん
母ハ侍從源通むらがしとめ

文脩 ぶんしゆ

内舍人 うちしやうにん 鎮守府將軍

文行 ぶんぎやう

後五位下 左衛門尉 母ハ利仁りじんがしとめ

云光 いんこう

後五位下 左衛門尉 母ハ長兼ながかね依定よさだ文ぶんが女

云清 いんせい

左衛門尉 檢非違使 依友よともと号なづす

脩行 しゆぎやう

左衛門尉 依友よとも流りゆう

助清すけよ

白首しらび之の河内かみの乃なり任人ぢうじん
主馬すま首くびよりて首くび友ともと号なづ以も或あるハ
守もの字とをとりて

秀清ひでよ

佐藤さとう流りゅう 如行ごとくけ末すえあり

助通すけと

白友しらとも控守くわうしゅ

頼義よりよし右みぎ兵へい部ぶ守しゅ七しち騎き共どもらと此こゝ一人ひとりあり

通清とよよ

鎌田かまた流りゅう

正清まさよ

兵部へいぶ尉ゑい

親清 ちんしやう

左衛門尉

義通 ぎつう

刑部丞 きやうぶのじやう

親清が景子とすれ言の助清が子親通が
才なり

親通 ちんつう

首友流 すづりゅう

俊通 しゆんつう

刑部丞 きやうぶのじやう 源口 げんぐち

保元平治の度乃合戦一義朝胡后

一あひ志こがひ我功を流く六条

河原の軍討死

經後こし

刑部丞さぶらふのぢ

右馬允うまのぢ

此乃ちひさしく新あらた紋いづ系けい馬ま終つひ失し寸すん

貞通まこと

山内やまうち孫まご六むと号なづ人ひと

慈照じしょう院いん殿の常とこ酒さけ院いん殿の一ひと子こ

盛通もりと

日ひ白しろ守もり

某なにか

某なにか

日ひ白しろ守もり

某なにか

盛もり豊とよ

山内やまうち佐さ馬ま守もり 生なま圃ほ丹に波は 坂さか尾お州しゅう 一ひと

しつり伝せ

織田家しつり尾列黒田の城に居す
弘治三年尾州岩倉にひく討死
先祖乃家の紋は黒白一文字なり申改より
丸うらふ之紫の柏にありしは
丹波の山にひく合戦の時敵軍つと
志く味方此士卒敗ゆとも此時先祖某
軍將ともりて怒を發しつり強を
あひたかむ先日の軍告しつり傳らり

しつり物なららるるは
しつり柏乃枝とありしは
むさしつりだつり勝利とゆへは
柏の紫このしつりるるは
白一文字をいふは丸の内柏に
之紫をいふは

某

十郎

叛と記一巻秀吉此指麾し属
戦切あり

と正六年八月播磨之本此城より
小之郎長派乃城より何れを挙て

ろしつ日十五日の兼石越中守城より
く赤古口の附城よりしついで

ときふ一巻嘉古口よりしついで
乃首とすれ事あり

是も六年上松系勝逆謀よりしついで

東照大権現七月一日野州小

山一進敷一たまたま時一巻借を

寸この良石田と成濠州岡原よりして
謀殺をくいらるよりしついで

あ系ふよりしついで

大権現八月一日豊前乃時と方五なり

よりひろふ一巻其の父を廻り

阿比とく一巻一巻守小山

ついでいりし封をひく守小山

なひくみの物二返と

大権現——だくゆつと死は少く是と

感——海は一を云と——きく

ゆつりくい——まみやふ衣出るあり

て賊徒と湯返治あるゆ——きうり

とひくいのまを川乃城をびよ人

質とす海——あり

大権現もふ——湯敷交ありとまふら

内友之は第の尉伝成をまら——を川の城

ありひ——人質をらまらり人質

ままみやふ小田原よはつらひ

あまより東海乃此城自若一をが忠貞

をゆか——く法城と

大権現——猷——ゆつれ

同年八月二十百伎早ありとて

い——まみやふい——みたらふびと

海に教命とくゆりく大垣の城と攻

同年土佐と一をよ下——ゆふ

同九年に承久叙せし進士依ちし何と
同年に聖坊此浄茶入をいぬり
同十年 伯とわたりて對馬忠義
に婚姻とやくしむるに
右法院殿より則重の沖腰おとぬり
同年九月廿日歳六十にして卒と

女子

安友伊賀守が弟某の妻

女子

妻田猪太富の尉の妻

女子

野中自計の妻

康考

山内修理亮

織田伝長よつふ七十七歳にして死す

女子

西園寺前内大臣公益の室

女子

稻葉依波守正成の妻

女子

山内を岐守の妻

政妻

山内右兵衛尉之二十二歳よりして死す

重昌

深尾おねの妻

忠義の家老や一よりむらひく子とす

一唯

山内豊前守

享徳十九年大坂御陣此時忠義の

戸より大坂へ負ひておりし

しわく一唯去依一玉の軍兵とあり

享徳より十一月に橋州に勝山をいくる

これ忠義の下知ししりとるりとすらし

大橋現へ湯をいりつる

台徳院殿の魔下に属す

寛永三年伊弉院番の役を仰せしめ

酒井河波守が大組のちらよとつれ

同年

伊弉院殿より仰せしめ一はく浦つる洛陽

いれ

同八年日光伊弉院奉仕仕立

同十一年

軍家伊弉院奉仕仕立 奉仕の

のち浦つ日光伊弉院奉仕仕立

同十二年十七年日光 伊弉院奉仕の

とこも浦つ伊弉院

忠義

松平左衛門 奉仕を川の城より浦つ

実山内伊弉院亮康をうり一を奉仕

て子とれ

寛永十年伏見の城より浦つ

とこも浦つ

大権現

右濂院殿

一 湯

一 湯

同年没五位下 一 叙 一 進 對 する 旨

一 位 也

大権現松平隠岐守定勝のしよあゝ湯養

子とまゝさし忠義一 嫡 一 たる 旨

ふのとも 一 侍 前 包 平 乃 湯 腰 物 奉 國 光

乃 湯 腰 差 を 許 給 也

右濂院殿よりともまゝ 一 新 友 又 國 光 乃 湯

腰 差 を 一 湯 乃 給

同十八年駿府 一 なる 旨

右濂院殿松平乃 稱 号 一 湯 乃 侍

の 字 一 び 一 綾 小 納 定 俊 の

御 腰 物 を 一 湯 乃 一 叙 一 叙 せ 也

一 依 ち 一 位 也

同十九年大坂陣 乃 一 一 白 紙 二 旨

費用 一 湯 乃 一 位 一 叙 一 叙 せ 也

小 妻 乃 一 湯 乃 一 位 一 叙 一 叙 せ 也

元和元年忠義土佐乃由ありて
大坂再陣のしをきく士卒を
引ひ船し一宗くきみやう大坂
ししもじうんとししとあり
河州甲浦よきし依り大風起船
とろろぐんと守忠義小舟あり
宗大坂よもしといふと寄手の
軍兵すくし凱をよ
寛永三年侍従は伊也

同九年

旨酒院殿薨御のしき造遺物
瀬戸肩衝乃御兼入白銀こす枝と
し系ふ此かっ御賜し海りりく御玉の時
御腰物御腰差治習治馬御服金銀ふ
毎夜御祈也
父一豊ししめ尾州岩倉城白織田
伊勢守信安しつし岩倉波あり
信安浪人しりてのち一豊我俸禄

なまらく信安に依りて世に演を川
去依いしきもり家よりよき
信安に對し旧主に礼をうけし
忠義の時よきもり養をこころ
るる。元和二年に信安に依りて
よき病死也

忠豊

松平對了守

母ハ松平隠岐守定勝のむすめ

寛永元年十二月二十八日没五位下小

叙せしむ對了守に依りて

女子

松下石見守の妻母ハ上ノおる

忠直

山内修理大夫母上ノおる

寛永七年十二月二十九日没五位下小

叙せしむ修理大夫に依りて

家級

黑白くろしろ文字ぶんじ

後のち栢のくわのの之の茶ちや下げ改かへ

山内
盛豊

五味

なま 山内氏より 政義よ いらめ
うめく 又 味と 祿と 山内乃 系
譜 盛豊い だんの るの 松平之 依守
と ぬる 一 かるが ぬよ 是と 略

● 盛豊

山内 伯子 生 國 丹波

乃ち尾州より任を織田家へ

はゆ尾州黒田の城へ居て

弘治三年尾州岩倉よりひく討死

先祖の敵に黒白一文字あり中より

丸の内より紫乃柏へあつたはれ

事ハ丹波の國合戦より敵軍より

しりより味方北士卒敗れすこ

と紀軍將いりたりとて徳と敵

とあひこふ先自北軍共らあち

若おをうら杉ひさきりうんすれ

と北柏北枝をとりにてはしる

ひさかへしうひ勝利とゆりこの

とさ柏乃紫とのりうると昔例と

とく黒白一文字と河へあて丸の内

へ柏の之紫をもちて

梟

山内法眼 生國尾張

尾州岩倉より甲州へをもちこ
武田信玄は法名曰泰

政義

源次郎 自殿御生國甲斐

信玄より入味常運が遠跡とす

少人より入味と稱す

天正十年

東照大権現甲州沙入のころ政義再

信玄麾下の兵士六十人を以て

今井九景と政義を継承と

か

天正十二年小牧陣乃と見信を

つとめ長久手合戦一政義軍功

ありし御陣の後

大権現甲州の法士我功此を以て

今井九景と政義

授

天正十八年小田原陣の時
をうり改義をうり
他志(尉)涉純奉(以)たれ
岡東(入)函(り)た(に)休(せ)る(の)年(は)
善(く)武(た)の(由)岡(戸)村(に)て
三十九歳(に)病(に)死(す)

鉤(かぎ)倉(くら)
酒(さけ)升(か)

豊直

令(し)右(みぎ)左(ひだり)尉(し)

天正十一年甲州(に)生(な)れ

大(お)権(けん)現(げん)

台(たい)漣(れん)院(いん)殿(でん)

将(しやう)軍(ぐん)家(け)一(いつ)人(にん)と(して)あ(り)し

年(とし)長(なが)十(じゆ)七(しち)年(ねん)保(たも)科(か)肥(こ)後(ご)守(まも)り
仙(せん)石(いし)号(ごう)大(お)捕(と)手(て)
筑(つく)訪(ほう)因(いん)幡(ばん)守(まも)り
伊(い)豆(まめ)守(まも)り

命(いのち)今(いま)あり
信(のぶ)州(しゅう)伊(い)奈(な)山(やま)一(いつ)人(にん)と(して)あ(り)し
材(ま)木(き)

作(しや)と(して)う(け)りし
海(うみ)

つ(と)りし

同十八年遊習うぬをまう かねて

ありと大津番とゆうせしむる

同年久永源とある

作をわうありと武藏お摸あまをり捨す

同十九年大坂津陣は供を

釣命とらふたまりりく 旗下の士乃

役不を配多と

元和元年大坂陣此と内友紀伊守

をて屋崎を海と志あふ海

考並津使ゆ〜〜〜皮地よいつふ

同之年池田備中守山崎甲斐守備中

乃ゆ〜〜をひく食色を并飲するの

〜〜考並 信をうけ〜ゆりり備中

〜〜考並 制法を信せ

同日女清御殿受化此時なり

法と心

同五年福嶋左衛門大友綱は乃と記

考並 作をわうあり藝州といふ

國政を定む

同年智恵院山門經苑等佛建立の

とつとつとつと

同七年丹波乃郡代とす

寛永元年二條の淨城奠地のとき

なりとつとつと

同年賀茂なるび小佛祖乃神社造

奠のなりとつと

同五年別所を修る淨改易れとつと

りの地一々を元々く法制とす

同十年叡山中堂講堂等佛建立の

とつとつとつと

同十一年御命とつとつと

らつとつとつと

同十二年一々を元々く五畿内を

つとつと

改長 まへなが

全江郎 生國武苑 なまくにぶち

元和八年

將軍家より侍人より侍り侍書院 しやうしやういん

番 ばん としとむ

家紋 けもん 白黒一文字 しろくろいちもんじ

● 集

荒木

家傳

秀郷

十代

波多野之郎 義通 孫 刑部 丞

義定 後 亂るり と言ふ

大茂

播州 大物 浦 一 子 一 子 一 子 討死

義村

信濃

橋別池田は伯也世一池田乃六人
荒と号も二子費乃地を叙と

村重

董名十二郎

孫次とありて又

信濃と号寸

後後田位下は叙

橋津守

伯也

橋州有墨城

居と

天文十八年村重十五歳乃時池田

勅吉清のるびよと流八人と討捕

これ世は所謂池田乃二十一人荒の内

る

同二十年村重伊丹兵庫頭が先鋒

宇治文作之丞と伊那寺に

あひとあひ佐と丞とらと系父

義村^{よしむら}あれをよろこびて村重^{むらむね}一
家督^{けあく}とゆつれ此ゆつて名^なを改^{かへ}む
信濃^{しんの}と号^{ごう}す

同二十一年白井^{しらい}河系^{かぎ}合戦^{あつせん}此^{こゝ}に
ふつと先鋒^{せんぽう}となりて茨木^{いばらぎ}乃城^{のしろ}を
茨木^{いばらぎ}佐渡^{さぶら}とあひさかひつ井^い
くみく佐渡^{さぶら}守^{まも}と討^うつにむむ村重^{むらむね}
率^{ひら}て茨木^{いばらぎ}
と城^{しろ}をせめとふふと

よりく餘威^{よりのい}近境^{きんきやう}よりつるひ翌日^{あした}
いづれと十^{じゆ}万^{まん}貫^{くわん}乃地^{のち}を領^{りやう}す隣^{りん}む乃
法^{ほふ}傳^{でん}こ色^{しき}に属^{ぞく}するのありしに
とひく村重^{むらむね}織田^{おだ}信長^{のぶちやう}に属^{ぞく}せんす
を信^{のぶ}とつる信^{のぶ}長^{ちやう}の村重^{むらむね}の
量^{りやう}を知^しる海^{うみ}のゆへにゆれり遇^{あひまひ}
せしは振津^{ふりつ}一^{いつ}函^{はう}を村重^{むらむね}に給^{たまは}り
且^{かつ}又^{また}後^{のち}に位^ゐ下^げに叙^{しよ}するはち侯^{こう}丹^{たん}
長^{ちやう}府^ふ政^{せい}の香^{かう}城^{じやう}なるはびと之^{これ}田^{でん}乃城^{のしろ}を

せめしりく三田乃城主馬お暇と
誅とげと死す榎の城主和田伊勢守が
嫡子和田太郎一旦村重より属すと
いしと年月を属く乃ら及逆と
企むにむむく村重られとせめて
ろれ城をとる此ゆへ一玉みかゆ
眼とあまをひく村重伝長此城と
うもく切ある者と賞くく食邑と
日ろ池田久左衛門尉池田此城と領す

本地五ふるり村重五万をくも
さくさく山右近の監及南坊
領も本地四万ふり中川源若東尉茨本
乃城を領も本地四万ふり村重四万ふ
とくく塩河伯耆守多田乃城と領も
本地二万ふり荒本志摩守乃ら安志と
花隈此城を領も本地二ふるり二万
五ふるとくも魚さくく荒本平太夫
備中守之田乃城を領も食邑二万ふり
と号す

安部仁彦の大和田一万石を領せしめ
十郎能登一万石を領せしめ異母弟荒木

次田吹田と領せしめ

信長紀州を征し羽柴

秀吉村正を征し村正と軍

ねと中務と征し給ふ時と

秀吉村正を征し河内を領せしめ

一益をもちて軍ねと守村正播州

神吉城を征し先帝を討つ

中人信長とわんざらふら

信長終者の一と終る村正と

誅せん守らにをひく村正を實

乃を陳謝せんがめは嫡子村次とね

具一江州安去りてんと

山崎一岩もつとらふ村正が

家信けいび安去りてれ一わね

庵一と事と累りて諫志うれと

下寸安去りてあ系親戚朋友速り

書なほせし信長の忿怒らわらざる
よしとほぐころゆへに村重途中より
へつりし思ひ城にたぐこころ信長
よりびに信忠大軍をおしとを
せむふといふも城固めて偏せぬ
しきく万見仙子代為命と亡すかに
なむく信長あひかり白城十二を搦て
しきくを海とせむるゆへに
城中糧もてしきく村重も信

り命とせむ思ひ城を海とせぬ
ひろふしきけの共と海程ありあ
かあり尼崎乃城にうつ系此と見
瀬川一益としりしより城中に
及ものありし城もてにやがる時
池田勝入父子為信長乃敵とけ
尼崎花隈とせめくあひたりあ
敷月より翌年之月よりして村重
城をうつし備後より尾道よ

留在此此に信忠村重たかを
 よりきくうらなうをうらなうを
 あつれと思去を海小あまのこ
 天正十年内智光秀伝忠と裁さまら
 とすく村重もふらぶ哭踊うきうどしぬ
 秀吉と下統乃好懐をく人給あまひ
 播州泉別いづみべのうちにをひく一而取
 をう海りりこ地し一屋居と
 同十四年泉州境いづみをなひく病死びやく

村氏

年五十二 法名道薰

吹田と号し
 伝忠乃あまの珠たまなり

村次

新五良 播州尾崎城おしに居と
 母ハ小河原之河守くわがわの女
 是後秀吉ひでよししつふ

天正十八年江州志津嵩よとひく
軍忠をしげ海一疋とくあり歩
ふし守ふ此ゆり一弟村基をて
秀吉一りつる一め村次へよるく
秀吉一り湯まらるる
東照大権現湯憐慈あつる一ゆり湯入湯
一りあつるまあく孫礼とすてり
ゆり一りさきんとよまらるる不幸
ゆり一り病一りかゝり死す年二十八

村基

孫四郎

秀吉一りつふ早世

女子

池田隼人の妻

伝女一りあ一り誅せられ

女子

信長一りあ一り誅せられ

女子
女子
女子

荒木と号す 村常の養母なり

景源院殿つづふ満つりおほききそ

將軍家つづふ満つり

村
壺

又と清

母ハ鳥帽子形の城主碓井固守の女

村
満

孫介

松平右清の佐つりはふ

村
常

左馬 童名十二郎 母とよおる

村常三四歳乃と死 父母を喪ふとこれ

ゆへに 旧臣小河原と佐り 宅よ養育

せしむるに播州小野原より住ま
るは乃ち大坂に在りてより
秀長秀頼を全府内の遊士を
を制し境を諭しと禁む是
士卒とありめんがふる村常と
きも幼児よりとゞも村童孫
しより四民の親つらん事を
おもんごりあれをさくめ
府内をいさぐと落城の時あり

軍勢一難く海と住ま
いふ系湖長の後浪野にふる
ころの藝州に海を呼杖助
をくつるより年久く志し
ごと村常た幕下つらん
るをぬぐいつかりて家
寛永十一年江戸より
同十五年乃ち肥前松本軍
しよりいさぐ二月二十七日に

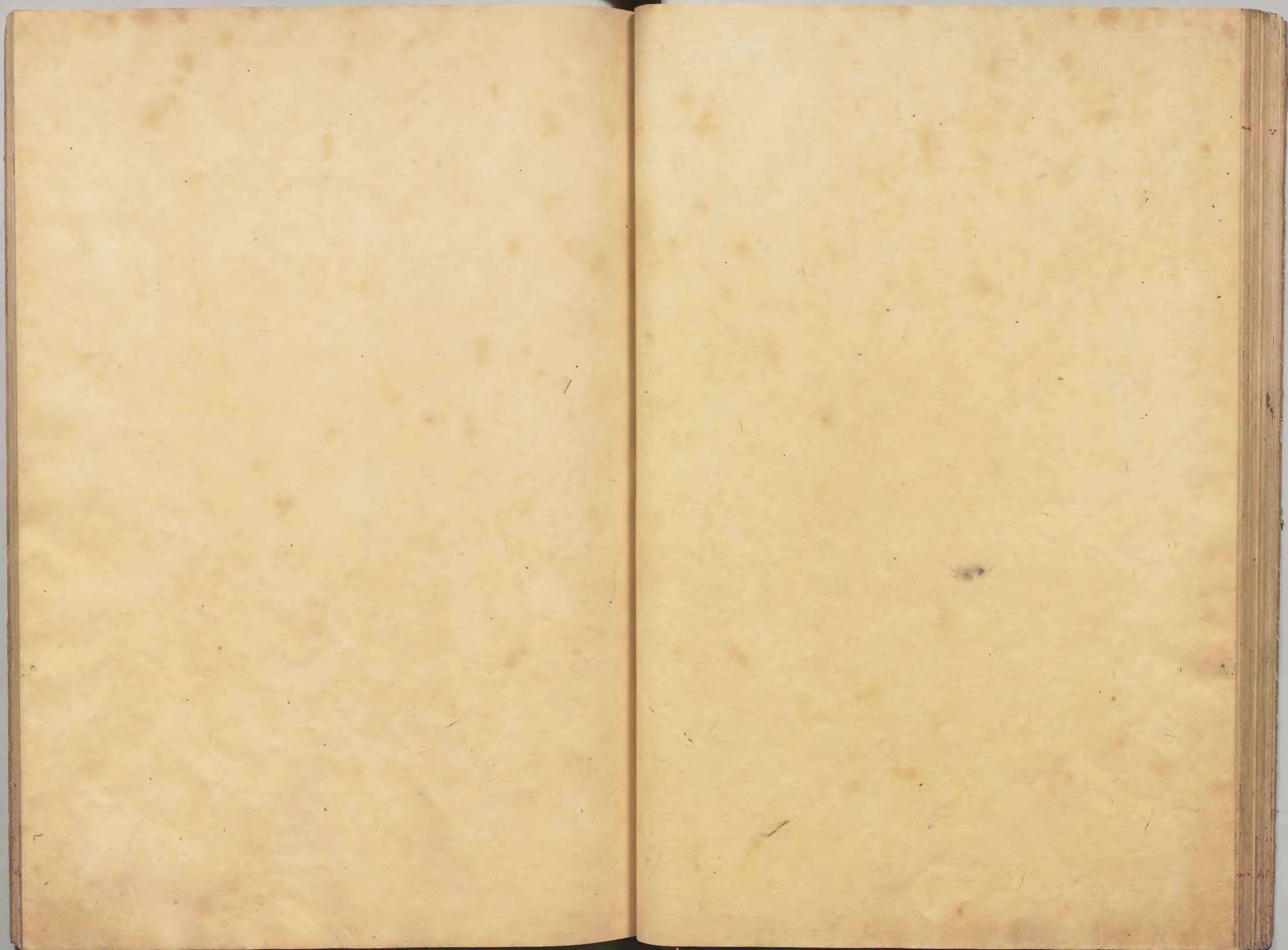
つさすふもら 細川肥後守がて 居
志々微志をいげゆま此時より
上使松平伊豆守信總一海にゆ
取一信總顧問よる事よふ
厚一ろれちさるりく
居

同十九年十一月二十九日 信總が吹
一

將軍家へ湯一海つり 翌年

正月十九日より一つめだく

家級 牡丹之本瓜



■ 集

大花

荒本

家傳いんよいいくひ秀郷しゅう乃の後のち胤いん荒本あらい
盛さか長なが苗なえ裔いるるりりとと云い々々

某

弓長清尉

某

美作

某

信濃

元清

志摩

法名安志

治一

石尾越後守

元満

荒木十左衛門尉

元和元年大坂清陣乃時りて

古瀧院殿より端々

寛永三年

任りしより後河

大納言忠長卿おほのくさね ちゅうさか けいより

元政

十右衛門尉

元和二年げんわににねんより

右衛門殿みぎのへもん どのより

寛永三年かんえいさんねんより

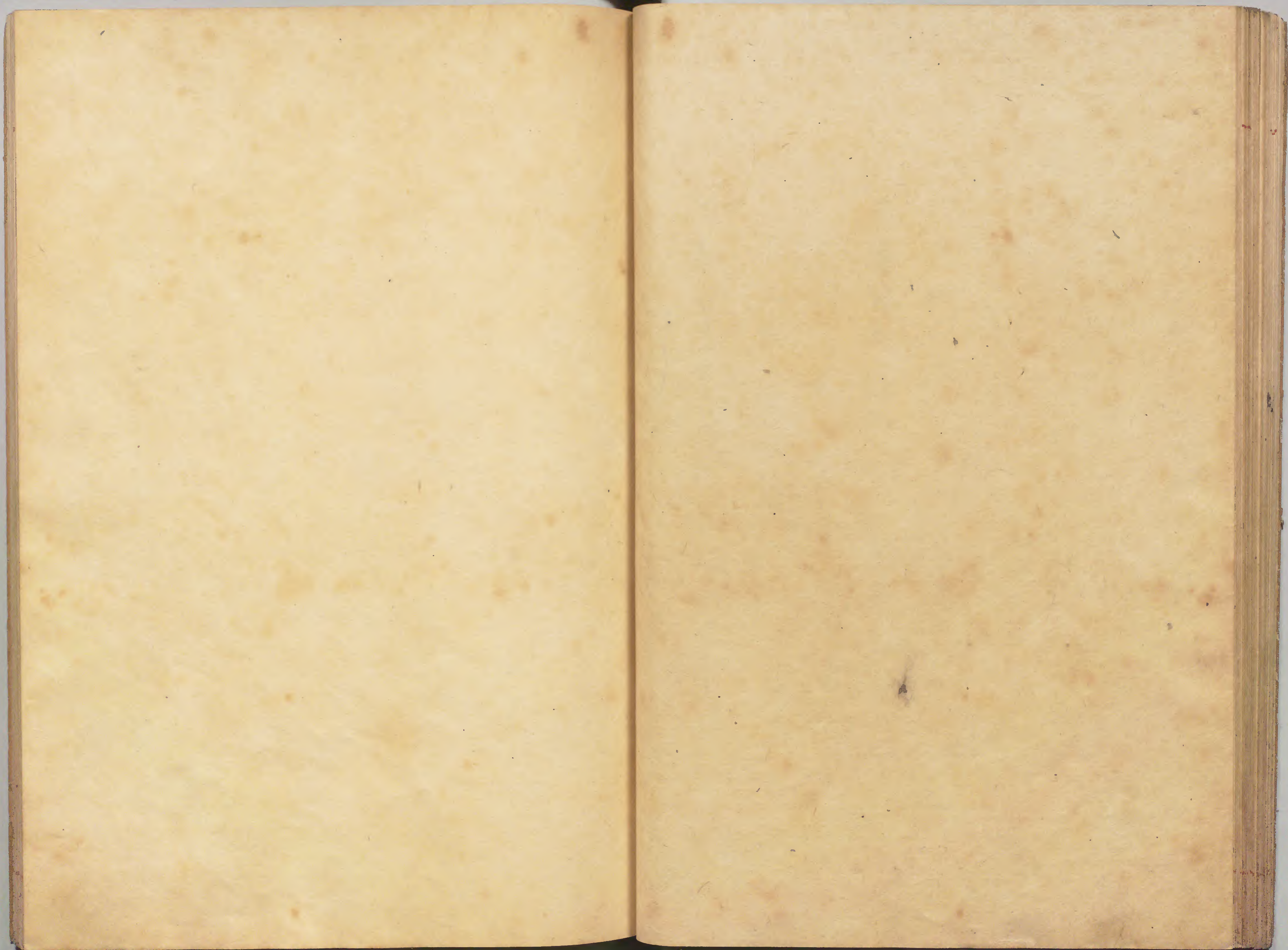
同九年どうくわんねんより

同十二年どうじゅうにねんより

右軍家みぎのぐんけより

家紋

牡丹ぼたん



某

荒本大花

本冬丹州波多野乃一門なり後橋州
小修しと橋州荒本此元祀より

石尾

倭友左秀郷の後胤荒本盛虫と元祀
とすと傳稱と伝一よむく石尾と号す

具

美作 攝州 一 佐々

元清

志摩 攝州 花隈乃城 一 あり

享長八年五月二十二日七十人歳 一

志と死と 法名安志

治一

後又位下 越後守

治一 一 荒木を改石尾也

号寸

幼少より孝行秀吉 一 つ二人黄纒の

すよそか

安長十九年大坂陣乃と

東照大権現 一 一 女さゆとく 麾下

属 一 たくとつね

寛永九年八月

將軍家よあつて

同十七年三月十八日より清小姓二繼一
乃番とつて

家の紋 とやハ橋杖ハ今ハハ莚ハの丸

今村いまむら

秀郷九代ひでたか

●秀高ひでたか

川村くわむら 振うら 後ご 守もり

義秀よしかず

川村くわむら 之の 郎らう

盛秀もりかず

二ふた 郎らう

秀家

秀村

友左

今村五郎

強右

重秀

秀通

孫五郎

孫六郎

此間断縁

勝長

彦吉清

冬州墨崎日生頼

清康君廣忠郷

東照大権現勤付

大権現之河上野の城を攻た

敵槽より矢をふる事兩此

槽此より矢を射こみ敵

槽より矢を射こみ敵

槽より矢を射こみ敵

槽より矢を射こみ敵

三州墨崎近邊一揆乃

又弓と弓つゝびく名をありし寸
倉地年在るつゝ謀と弓つゝ武田伝玄
を冬州一ゝむさい善んよ大膳長是
とまきて

大膳現一ゝつげせらよとれら 仁とらあ
海りりゝ倉地と殊とふとゝ勤功
をとげま守られと感づ海ひて領地
とく久給ふ

大膳現岡東海入玉のゝとと膳長年花

之類ゆ一ゝつゝ海つる事何ゝりん
隠居一ゝて清佐一ゝと海つ寸
も南初勤功あつ小よりと武州
小塚原一ゝとむと領地と海つる
役とゆれとふ

享長五年八十一歳少一ゝく死に

法名法善

重長 しげなが

彦三郎 生母同前

大権現一つ一人一くま一り一幼少一れ一

涉えん膳えんあえんとつえんとえん

天正三年冬州長篠合戦のとき

名と

冬州墨崎をををくく黒柳黒甚甚死死と

いいものもの一一揆一ととおおここううんんとと守守重重長長をを死死

を生捕にとと死死しし重重長長十九歳十九なり

大権現を此此切切とと感感しし一一遍遍ひひてて名名死死が

家財を一一ひひはは領地を重長を一一遍遍りり

同十二年尾州長久手合戦乃とと死死

高名と

右徳院殿一一一法法人人一一一一遍遍りりとと御使御

番とああふふ

享長十九年元和元年大坂あ御陣

乃ととと高名あり

正位

元和二年 食邑をくくふりて 約
とうけく 伊豆下田の番をつとむ
寛永四年 七十一歳より死す
法名 法明

侍右 参内尉 生國 同前

大指 現よりつとくまらぬ

大坂陣より借をりて 其級をたかむ

軍忠をとうげまするに 阿波守中守より

ひつとにふまをきかす

正時

侍左 生國 武藏

正位より養子とまら 寛永正長が子也

寛永六年

將軍家を孫礼し 清書院をた

とせ

正長

侍四郎 幸州濱松

名瀧院殿

とるりとのら

元和元年大坂此陣

とらんれる敵の鉄炮

歩中敵陣

伯耆守が与力を友忠

るを借正長を此馬

とを入る名も然も正長が士卒

かざる振く敵と討

うづれあになひく正長忠

いひぐるき家

よひくハ討死せん

中へ入ると町あま

そのるをゆく

名瀧院殿

比千石をくらふ

同年十二月朔日

大権現の御前より兵を遣はされ軍

忠をぬらんまら此はし御風の 信を

わらふ

同六年三月乙未三歳と正長法目

付とまら羽州家上りなるまら

翌年四月乙未一かた

寛永元乙五月乙未越はと正長法目

付とまら大坂よりなるまら同年

九月一一人

同四年父が遺跡をつとて巨州下田の

番をほめ皮地よりなるまら

と海より

同十年 信よりなるまら正長曾我

丹波と信よりなるまら肥前此は長崎より

長崎の高船よりなるまら宗門禁制

の事を沙汰す

正成

傳三郎

生西武苑

台徳院殿

寛永十年三月

將軍家此おがせをうちたまひり正成

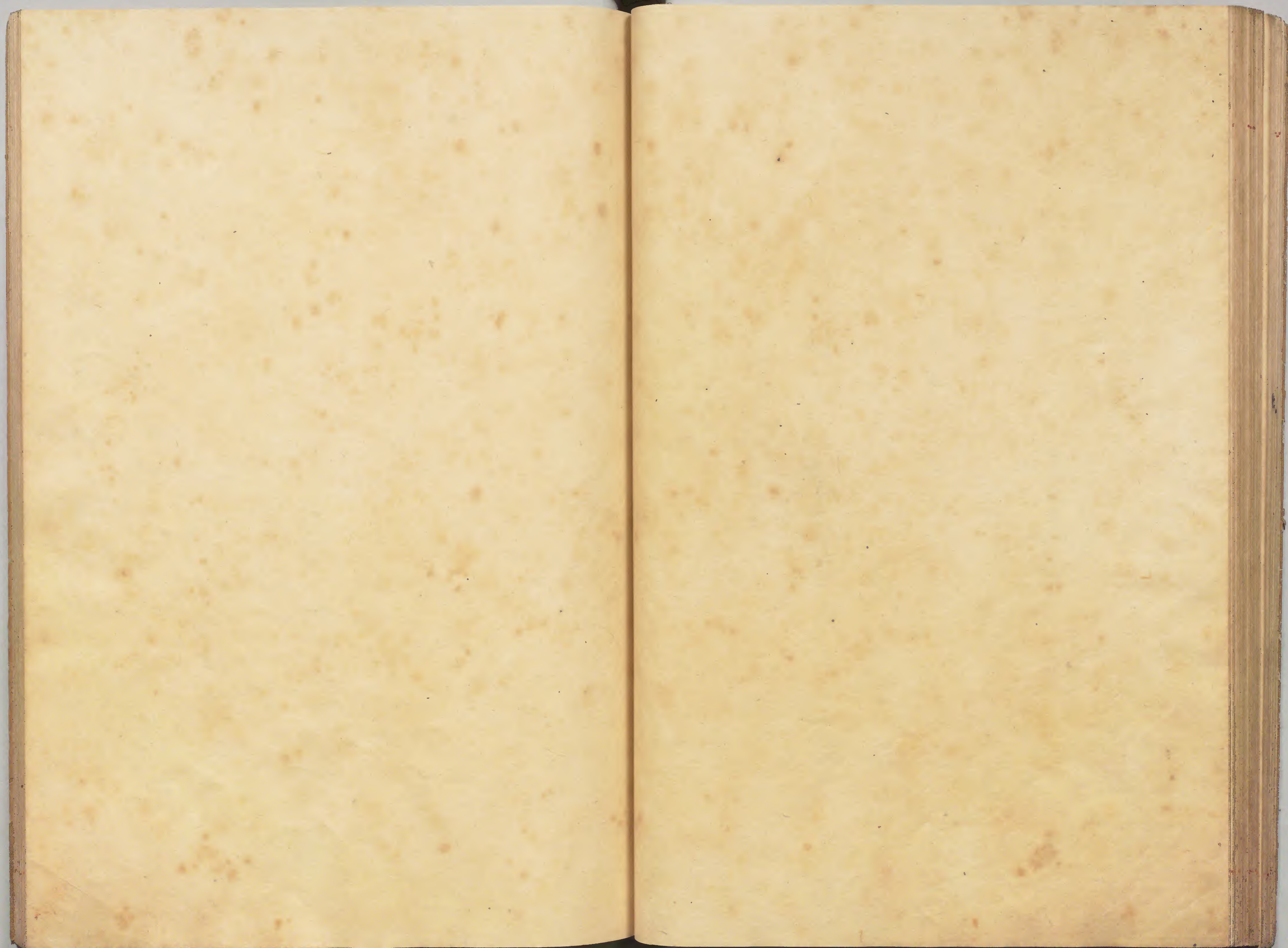
より下田小左衛門同年十一月

いふ事どもあはれをいふ

食邑五百石を領す

家乃紋

藤丸丸



今村いまむら

吉久よしか

東照大権現とうしょうだいこんげん
一い片かた人ひと之の名な由よしりり
清良河きよらがわ法名道清ほうなみちきよ

吉正よしまさ

九良名集くらなむね
生年同前なまねどうぜん

大権現ノ一法如人ナク由ツル

天正十二年長久手合戦の時名と
均よりりる

台徳院殿

將軍家ヨ法久ノ一ノ由ツル事涉禮奉

川とつとむ

寛永十六年八月官リ死寸七十

五歳法名道継

吉重

九良吉清 生小 ね摸

吉正子ナキヨヨリヨリ吉重と仰

るひく子と守実ハ外祖父坪井金次

が子るり

將軍家ヨ法久ノ一ノ由ツル

寛永十七年五月朔日清書院殿と

つとむ

家乃紋

友ともの丸まる内うち下した結むす

信正のぶただ

次大夫つぎだいら 生母なむ 同前

信吉のぶきち

淡路あはぢ 生母なむ 信濃しなの
葦田あしだ 下野しもとの 与よ 佐子さこ

関せき

葦田修理大夫同右衛門大夫一ツ子

天正十年

東照大権現甲州新府津出馬乃とこ

山小屋よこもり忠節を侍くまよ

よらよらくはくしつとら

萬七五年澁州買原津陣よ信守子

つとせ

同七年之月六日六十一歳山一と

病死 法名道仲

信久

孫三郎尉 生年同前

右徳院殿一と信久とくはつら

萬七十九年元和元年大坂西夏の

津陣よ信守子乃ち

將軍家一と一とくはつら

家此級 上の蝶



●
音正

圖

赤右衛門尉

生石尾張

しごめは羽柴がねよつらんからい

前田孫五郎まへだのまごがもとにあり又寺沢志麻呂てらざわのしまろ

よつらんから駿河大納言忠長すまがのへ

流かみ

正成 まさなり

普之郎

生承 同前

台德院殿

將軍家一侍人なる侍

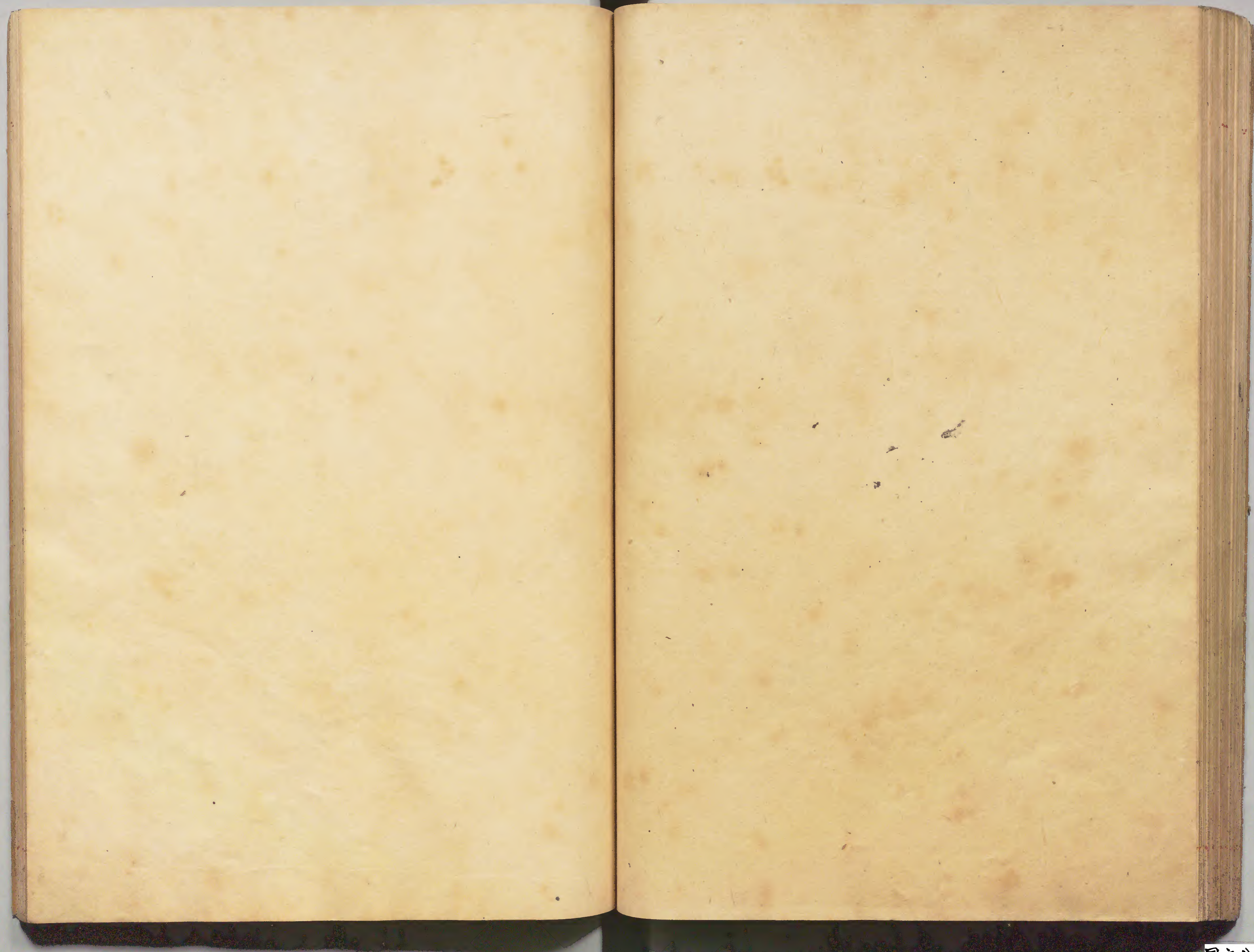
正重 まさしげ

平之郎

生國 なつくに 武苑

家此紋

丸乃内まのうちに上羽かみの蝶と



吉真

関

狭こま 生なま 信しん 法はふ 名な 長なが 水みづ
 葦田あしだ 修理しゆり 大おほ 吏し 一ひと 人ひと 跡あと 子こ 同どう 心こころ 之の 人ひと
 足あし 将しょう 之の 十じゅう 人にん を あが け

吉道

五郎左衛門

生田 同前

天正十年

東照大権現甲州新府津陣乃時吉道

息男一人と贊とて山條氏並に渡と

いふも山小屋より忠節とつと

孝長五年 宮原津陣乃と記

大権現乃り小意とて供奉と記

同十年四月七日六十日榮少と記

法名道霍

吉道

五郎左衛門

生田 上野

右徳院殿より法名とて記

孝長十九年元和元年大坂南度此

津陣に供奉とつと記

將軍家より法名とて記

家紋

上あが羽この蝶てふ

● 光正

関

如三藩

生心

信濃

成田信玄同勝頼了了信玄

正安

少三集

生國同前

葦田右衛門大史あしだのえもんより
て正十年しんじゅうねん

東照大権現甲州新府とうしょうだいこんげんこうしゅうしんぷより治出ちいでる此

と忠節ちゅうせつとも多満たまんより小よりこより園園

原清陣はらせいじんの意い

大権現より多よりいごよりいごより供奉くわんぷとつと

正重しんじゆう

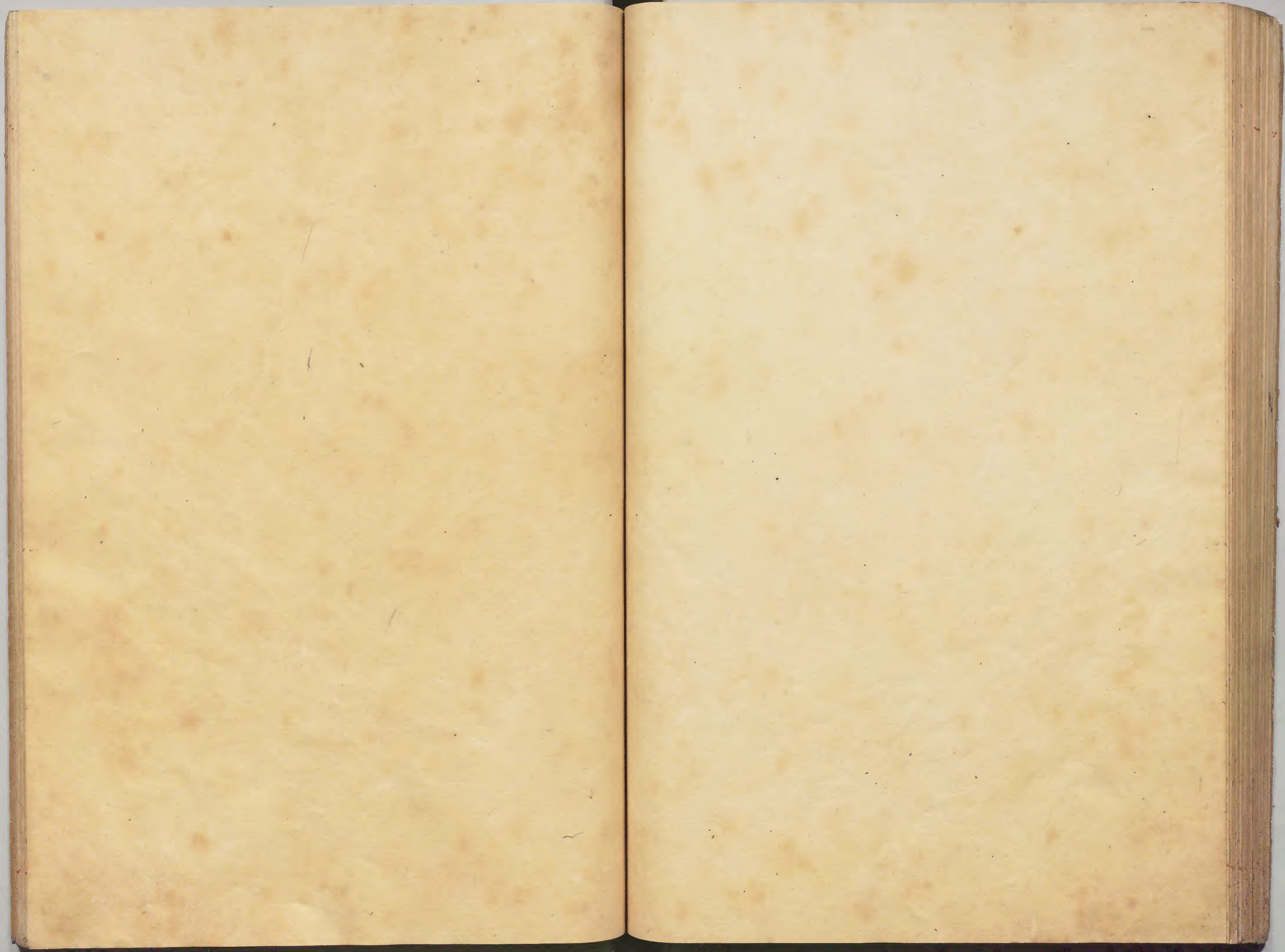
本もと二にた忠ちゆう尉ゑい

生なま上かみ野の

台徳院たいとくゐんより治ちふふより大坂おさか毎度まいどの
御陣ごじん小志こしよりよりをまつをまつよりよりち
將軍家しやうぐんけより治ちわわよりより海うみつね

家いへ此こゝ紋もん

上かみ羽はねのの蝶てつ



留田

某

以良書

生西卷河

東照大権現子法人之海つ親

天正七年一死七歳六十九

某

金十郎 生國同前

大権現は法入とて海つり冬州
をひく三十貫乃銀魂とてまよ
と正十二年尾州長久寺合戦
供事と首級とゆりて賞也と
て臺州原谷とてひく米地之
十貫とて之と海つりてとて六十

貫と銀也

同十八年小田原陣の時とて麾下
とてとてとてとてとてとて
文禄元年九月二十三日冬州
とてとてとてとてとてとて

政勝

庄長清 生國同前

右徳院殿

將軍家よつとくまつ

寛永十六年十一月廿六日一死

歳六十二 法名 淨龍

政成

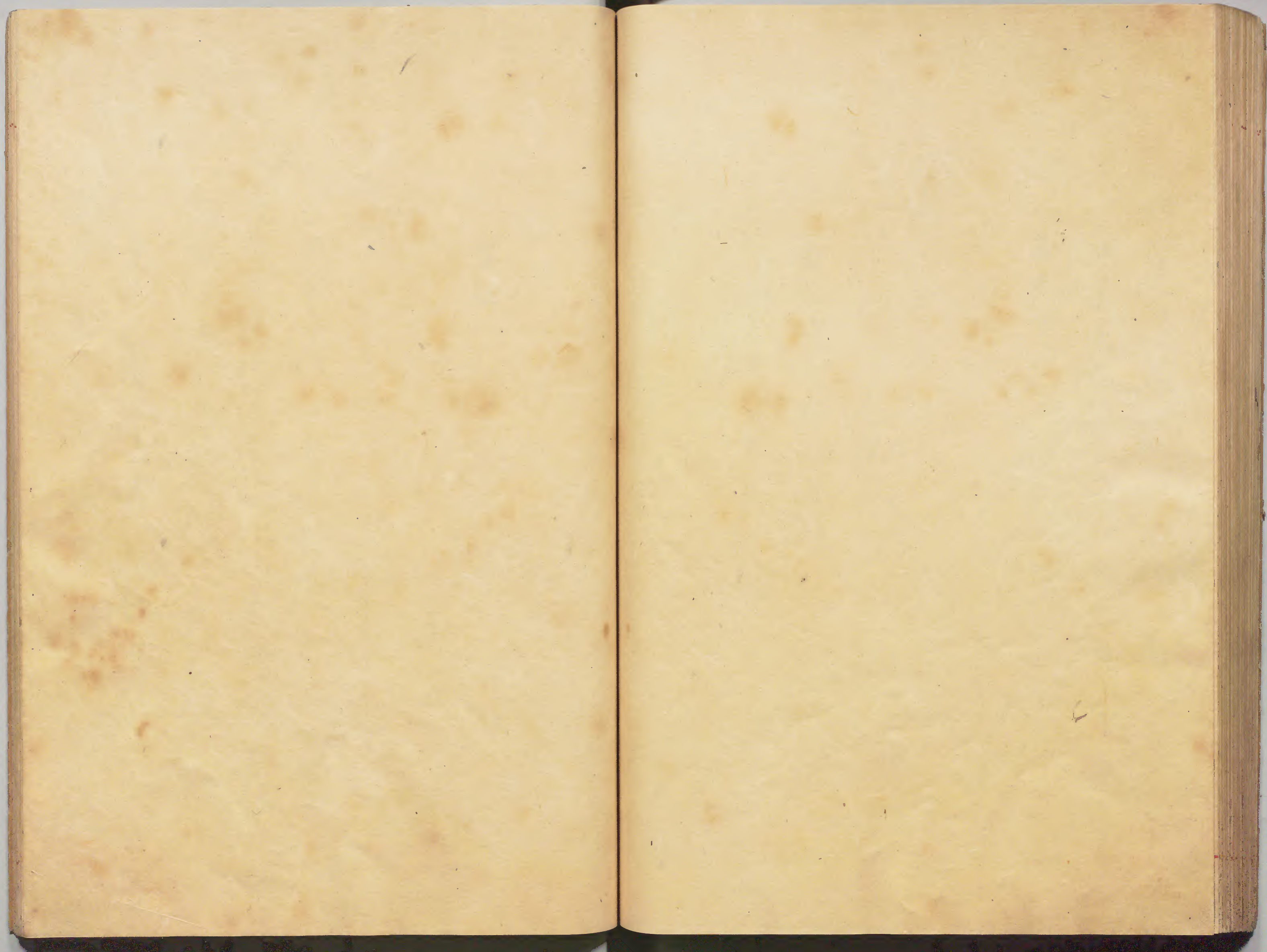
庄吉兼 生國 武苑

寛永十五年より

將軍家よつとくまつ

家乃紋

丸の内 櫛



畠田

系弘

膳部丞尉

生員越前

東照大権現
右瀧院殿

元和三年十一月

將軍家

伊太筆の役をつとむ

寛永八年三月七日一死に歳五十二

法名法見

系教 ひかり

勝太郎 生必駿河

幼弱のときより系弘ひらやぶひと子と

寸実すんじつハ系弘ひらが姪ひまなり

寛永四年三月一日歿す

將軍家にお湯一伊太筆の役をつとむ

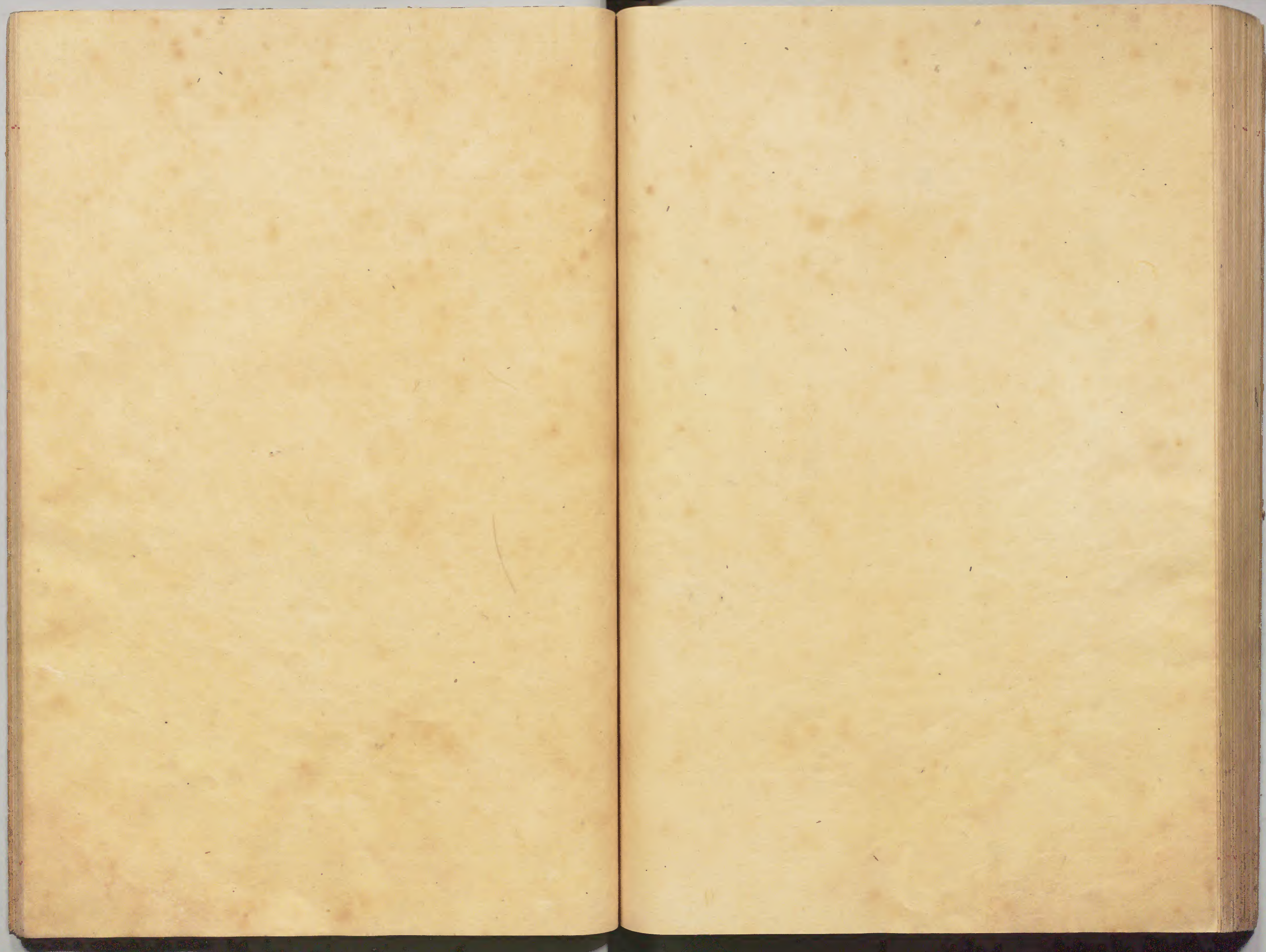
系教幼年こどもにして父ちちをうけなまか

ふがゆへは家系いへいはひびくす

系次 ひつぎ

徳茂 武剛江戸に生れ

家の紋 上巻の丸 あがりまが



木村きむら

秀郷ひでさか八代

● 有あり總そう

足利あしかが七郎しちらう

戸夫とと子こ也や号ごう寸すん

基もと總そう

依よ野のと号ごう尺せき

為系こゑけい

前左衛門守まへざゑもんしゅ

廣總ひろすゑ

民部大丞たみぶおほじやう 河曾あはら 沼ぬま 与よ 号ごう 守しゅ

伝總でんすゑ

五郎ごらう 畠はたけ 中なかつ 河曾あはら 沼ぬま

保延たもひろ 五年ごねん 四月しがつ 死去しゆき 法名ほふな 淨心じやうしん

雅綱みやま

木村きむら の 元祖もとすけ 太郎たろう 右衛門ゑもん 守しゅ

秀頼ひでより

喜應きおう 二年にねん 三月さんがつ 死去しゆき 法名ほふな 明心めいしん

太田おくだ 守しゅ 郎らう

時總ときすゑ

三郎さんらう 右衛門ゑもん 守しゅ 郎らう

建久けんきう 元年げんきう 三月さんがつ 死去しゆき

時親ときちか

小次郎こじちらう

信經のぶのり

三郎 在任

承久四年 死す

治經のぶのり

畠田友房

行經ゆきのり

三郎

行親ゆきのちか

建久七年 死す

五郎 在任

建保三年 死す

義經よしのり

五郎 在任

文永四年六月 死す

度のり總子

太郎

文永八年一死

延のり總子

富しよ思しよ七郎

度のり直しよ

小野右の三郎

伝のり重しよ

孫太郎

伝のり政しよ

次郎のり

徳治元年十月一死

秀のり經しよ

又之郎 右のり

康永元年一死

負^ネ總^{ソウ}

又^{マタ}守^シ郎^{ロウ}

定^{テイ}總^{ソウ}

太^{タイ}郎^{ロウ}

長^{チガ}門^カ守^シ

延^{エン}文^ガ八^{ハチ}年^{ネン}一^{イチ}死^シ也^ヤ

信^{シン}治^ジ

弥^ミ太^{タイ}郎^{ロウ}

信^{シン}茂^{モウ}

弥^ミ次^ジ郎^{ロウ}

民^{ミン}部^ブ少^{セウ}補^ポ

應^{オウ}永^{エイ}二^ニ十^{ジュウ}三^{サン}年^{ネン}六^{ロク}月^{ゲツ}一^{イチ}死^シ也^ヤ

信^{シン}直^{チキ}

尾^オ曾^{ソウ}戶^コ

茂^{モウ}總^{ソウ}

庄^{シヤウ}太^{タイ}郎^{ロウ}

應^{オウ}永^{エイ}三^{サン}十^{ジュウ}三^{サン}年^{ネン}九^ク月^{ゲツ}一^{イチ}死^シ也^ヤ

秀總いへふ

太郎

寛正八年二月廿一日死

秀治しゅうぢ

彦次郎

文書を携へ奥州にゆ

秀延しゅうえん

彦次郎

文龜二年十月一日死

房總ふさね

彦次郎

明應九年二月二十八日死

法名道光

信澄のぶあき

法名快与

持久もちひさ

左衛門加賀守 生田下野なげの

天文二十年正月二日に死に

法名了阿弥陀しやうあまた仏ぶつ

高光たかみつ

彦六郎

永禄三年四月十八日に死に

法名眼阿弥陀がんあまた佛ぶつ

信久のぶひさ

平之郎 左衛門尉 生田下野

母身ははみ了阿弥陀しやうあまた乃中里長門守なかつらながちのりがむすああり

東照大権現とうしょうたいこんげん一いつつつ入いくく海うみつつ親おや

享長三年七月二十二日に死に 法名

僧阿弥陀そうあまた仏ぶつ

先行さきゆき

女子

女子

女子

阿曾あそ沼ぬま小三郎さぶらうの母

女子

則すなは總ちゆう

久ひさ忠ただ

生なま國くに遠とほ江え

大指おほさし現げん

右みぎ徳とく院いん殿の一ひと人にまゝまりして

元もと和わ八はち年ねん十じゅう月げつ十じゅう二に日にち一ひと人に死しす

法名ほふな但た阿あ孫そん改かい仏ぶつ

光みつ久ひさ

城しろ剛たけ伏ふし見み一ひと人にまゝまりして死しす

英ひで總ちゆう

小こ源げん右みぎ生なま國くに遠とほ江え

十じゅう二に歳さいのともも林はやし佑たすけ左ひだりのともも光みつ政まさのともも養やしやう子こ

とならばからがゆへにまりして林はやし忠ただのともも

号なは

大指おほさし現げん

白瀧院殿

將軍家より法入しくまつた

寛永十年四月二日より死す

法名法蓮

為信

越前

武州江戸よりまゐり

白瀧院殿

將軍家より法入しくまつた

伝清

童名 松崎丸 早世

伝年

母長島 母ハ中多右郎在桑つが妹

白瀧院殿

將軍家より法入しくまつた

宗總

久在桑 母長島 林長右衛門つがひとめ

台德院殿

乃軍家ノ法ハ如ク人ノ志ハ満ツル

家此紋

之ハ左ニ巴ニ

